



Le Journal de l' Etoile.

中学1年 白樺合宿①

僕は5月20日から白樺湖に合宿に行きました。2泊3日の短い時間でしたがクラスメイトと一緒に協力し仲良くなることができたと思います。合宿に行く前に話したことのない友達も多かったので色々な人と話してみたいと考えていました。

1日目は学校からバスで長野まで行きます。バスでは今まであまり話したことのない同じ班のHくんの隣に座りました。Hくんのことを知る良い機会だったと思います。宿舎に着くとみんなでご飯を食べました。バスの中で仲良くなったHくんやAくんと食べました。そのあと、何個かのパーツを使い、みんなで協力して1つの図形につくるというプログラムを行いました。パーツに触っていいタイミングでは班員と話してはいけないという条件があったので、周りとのコミュニケーションを上手に取ることができず難しかったです。しかし、作戦会議の時は話すことができたので、みんなでどうするかをしっかりと打ち合わせ、無事に完成させることができました。みんなで図形を完成させた時は嬉しくうっすらと絆が生まれたと感じました。夜ごはんは昼食と同じ席だったのでHくんとたくさん話してもっと仲良くなれました。

2日目は黒曜石ミュージアムに行きました。黒曜石ミュージアムでは黒曜石を自分たちで削り、キーホルダーを作ります。削るのには力が必要で大変でした。友達とどちらが綺麗な丸に削れるか対決をしました。結局負けてしまい、悔しかったけど自分の納得のいくキーホルダーを作れたので良かったです。宿舎に戻り昼食を取ると白樺高原でオリエンテーリングに参加しました。白樺高原のいろいろなところに文字が書かれた紙が貼り付けられていて、全ての文字を合わせるとある言葉になるというプログラムです。前もって配られていた地図でどのような順番で回るか班員と一緒に決めました。途中で疲れた友達がいたら、その友達の荷物を持ったりして最後までみんなで協力をして頑張りました。8個全部回って答えがわかった時は班のみんなで喜び、疲れを忘れていました。宿舎に帰るとお風呂に入ります。山に登って汗をかいていたのでとても気持ちよかったです。お風呂に入った後夕食を食べました。みんなお腹が空いていたのでおかわりをしていて、僕は3杯ご飯をおかわりしました。寝る前にはみんなで聖歌を歌います。引率の先生たちがピアノやギターを弾いてくれ、やる気が出ました。

最終日はみんなで部屋の片付けをしてから宿舎を出ました。バスに乗るとみんな疲れていたのか、行きと比べてとても静かでした。お昼ご飯とお土産を買うためにお店に寄りました。昼ご飯に出た釜飯はとてもおいしかったです。今回の合宿は話したことのない人と仲良くなることができて、これからの中学校生活を楽しんでくれる合宿になったと思います。時には厳しく時には優しくしてくださった先生、合宿に送り出してくれた両親、そして僕たちを見守ってくださった神様に感謝の気持ちを忘れずに、これからも学校生活を送っていきたいと思います。(中1S・I)





Le Journal de l' Etoile.

中学1年 白樺合宿②

共生－共に生きる。僕ら中1学年は新緑の美しい白樺湖でこの言葉と向き合いました。

中学校から暁星学園に入った僕は、知り合ってすぐの同級生との2泊3日を一緒に過ごすことが、正直不安でした。白樺湖に到着してすぐの昼食は牛丼です。友達と食卓を囲んで、不安が和らぎます。

初日の午後は、校長先生、宗教科の先生、カウンセラーの先生のお話を聞く時間が続きました。聖書のお話は、初めて聞く話が多くて、正直難しかったのですが、心に残ったのは、自分を深く見つめることを促されたことです。自分の至らない点は何か、どうすればより良い自分になれるか、深く考えた時間でした。ふと、母がよく口に出している言葉を思い出しました。「実に招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」(マタイ 22・14)。「暁星学園に招かれた4月。これからの6年間の生活の中で成長して神様に『頑張ったね』と思ってもらえるよう、自分を深く見つめて過ごすことが大切なのかも」、夜のミサの言葉が少しずつ自分に染みてゆくのを感じました。

2日目は思い出深いです。夏のスキー場の坂を逆走して駆け上がり、林の中を駆け巡るオリエンテーリング。チームで、地図とコンパスだけを頼りに協力してゴールした時の爽快感と連帯感。共生という言葉を実感した時間でした。

2日目に自分たちで作った黒曜石のキーホルダーと、お小遣いギリギリまでたくさん買ったお土産を抱えて帰宅。あっという間の2泊3日。お土産のリンゴ餅を頬張って喜ぶ弟の顔を眺めながら、僕は、共生、内省、という言葉に反芻したのでした。(中1 O・I)

